

玉垂



平成13年4月15日 神幸祭

ご挨拶

小國神社 宮司 打田 文博

平成十三年小國神社例祭は、四月十五日に神幸祭、十八日に例祭が斎行され十二段舞楽・巫女舞の奉納など、諸祭典とともに滞りなくご奉仕申し上げました。

神幸祭は快晴の中「神輿渡行」「勅使行列」が氏子崇敬者のご協力を戴き、多くの参拝者の見守る中盛大に挙行出来ましたこと衷心より感謝申し上げます。

特に本年の勅使役は森町長の村松藤雄様にご奉仕いただき、また例祭には神社本庁総長工藤伊豆様、県神社庁長矢田部正巳様をはじめ多数のご来賓の皆様にご参列賜りましたこと厚く御礼申し上げます次第であります。

ところで、この時期ご社頭は新緑の季節を向かえ宮川沿いのもみじの緑はこのほか鮮やかです。また、石楠花も満開で境内に群生するシャガも花盛りとなりました。日常生活を離れ、心の癒しの場として参拝者の心をなごませております。慌ただしし時ほど心にとりを持ち大神様のご加護を祈ることが大切ではないでしょうか。

さて、当社の新年度事業と致しましては、末社「八王子社」の覆殿の改築工事をはじめ、祈祷参拝者の利便性を考慮したトイレの整備、境内林の育成計画の立案等、鋭意取り進めてまいりたいと存じます。また、本年は神社の奉仕活動を主な事業として活動されている「小國神社振興会」が五十周年という慶賀の年にあたります。来る十一月二十三日には記念式典が挙行されますが、振興会の一層の結束を計り、飛躍元年と位置付ける有意義な式典となれば、誠に幸甚の至りに存じます。

いずれに致しましてもご社頭の繁栄は、大神様のご神徳は基より、崇敬者の真心なくして実現するものではありません。職員一同、神慮を畏み国の安寧を祈り、社務に精励致したく存じますので、各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

神の森朝の木漏れ日身に浴びて心晴れ々我参道を行く

例祭齋行



勅使役 村松藤雄様

四月十八日は、当社ご祭神のご神霊が出現した日とされ、ご縁日に当ります。午前十時より例祭を執り行い、特に本年は神社本庁総長工藤伊豆様のご参列を賜りました。

四月十五日午後二時には例祭に伴い神幸祭を執り行いました。神幸とは神がいでますことをいひ、御本殿より神輿へ御霊が遷され、渡御が行われます。

神輿を中心にし、前後に神宝神器奉持者・巫女舞奉仕者・稚児行列奉仕者・神職が列を成し、神幸所（お旅所）へ向います。神幸所祭執行後、舞楽人一同を加え、一の鳥居まで巡行し、さらに勅使行列が合流し還幸へと移ります。本年は勅使役に森町長の村松藤雄様をご奉仕くださいました。



太平楽
右より 松尾祐歩・谷川正生・大場脩司・神麻敏来 (敬称略)

神輿より御本殿へ御霊が遷され神幸祭は滞りなく齋行されました。

当日は神賑いとして地元の手揉み保存会による新茶の手揉みの実演があり、出来上がった新茶は、献茶祭に供えられ、終日参拝者にも接待されました。

例祭に係わる祭典としては、十四日に予め募った詠歌を神前に奉納する詠詠祭、また氏子内の出生・転入を神前に報告する氏子入り報告祭が執り行われました。十七日には前日祭いわゆる宵祭りが執り行われ、例祭当日をむかえました。

こうして例祭の諸祭典が賑々しくも厳かに齋行されました。

国指定重要無形民俗文化財

十二段舞楽奉奏

舞い子達は、三月下旬と本番五日前の舞踏屋入りより稽古合宿を行います。三日前には末社塩井神社において垢籬祭に参列し身を清め、拝殿にて稽古の成果を神前に報告する舞揃をします。前日は試楽として本番同様に舞殿で舞います。神幸祭当日は本日といひ、午前十一時より午後九時頃迄十二段の舞楽は奉奏されます。

夕刻より灯された提灯が獅子により一つ一つ落とされ、消灯とともに終演となります。その後、投げ餅が行われ、拝殿にて終了報告の参拝をし、弥栄を祈念して舞楽の幕は降ろされます。

十二段舞楽奉仕者御芳名 (敬称略)

指南役	大場 輝夫	色 香	朝比奈 教人
副指南役	白幡 富幸	高 木	邦 豊
師 匠	大場 喜久司	乗松 邦明	磨 佐彦
	大場 廣一	鈴 木	高 久
	小澤 智加志	鈴 木	高 久
	天野 智加志	狩 野	高 久
	大場 詞信	鈴 木	高 久
	北藤 恵介	嶋 田	高 久
	大場 明廣	鈴 木	高 久
	小林 静雄	鈴 木	高 久
	大塚 静雄	井 口	高 久
	大場 佳士	井 口	高 久
	大場 勇輝	鶴 見	高 久
	鶴 見 祐介	鶴 見	高 久
	松尾 祐歩	鈴 木	高 久
	谷川 正生	岩 藤	高 久
	神麻 敏来	平 内	高 久
		小 澤	高 久
		内 藤	高 久
		賢 明	高 久
		浩 市	高 久



稚児舞
右より 大場竜士・大塚佳哉・大場勇輝・鶴見祐介 (敬称略)

巫女舞奉奏

神幸祭には巫女舞が奉奏されます。小学生の女子四人による舞で太鼓と笛の楽だけで舞われます。代々継承されている指南役（原田多加資氏）の指導のもと、一生懸命練習を重ね、当日は見事にその成果が伺えました。かわいらしくもあり、悠久を感じさせてくれました。



巫女舞
右より 山下祐佳・毛利美貴・武成島愛乃・北嶋智恵 (敬称略)

古代の森シリーズ②

並宮(なみのみや)



並宮

御祭神は、伊邪那美命・事解男命・速玉男命の熊野三神をお祀りしています。「延宝八年の記録」(一六八〇年)によれば、「社殿の結構、また祭典の儀式に至るまで古より御本社に準じ、並座を以って並宮と称す」と記載されています。明治十五年の大火により社殿は類焼し、末社八王子社に御神霊はお祀りされていたが、昭和四十三年三月十日に明治百年を記念し、玉垣内の旧社地(御本殿の東側)に再建され現在に至ります。社殿の造りは御本殿と同じ大社造りであり、建坪は三坪余りとなります。

西部地区神道青年会

「大寒褌」参加

去る大寒の一月二十日、恒例の褌が磐田郡豊田町のJ R東海道線鉄橋下の天竜川で行われました。

褌が始まった午前七時の気温は氷点下二度、水温が四度でした。寒風が吹く厳しい状況の中、西部地区の神社に奉仕する青年神職二十五名と一般参加者が、精神を昂める「鳥舟行事」を行い、さらに氷が残る川に入って「大祓詞」を唱えました。当社からも村松・森越権祢宜の二名が参加し、今年一年の無事を祈念して身を清めました。褌が無事終ると青年会のご家族手製の豚汁で身心共に温まりました。

この褌は神職の他、一般の方の参加も出来ますのでご希望の方は当社までご連絡下さい。



森越権祢宜(左より3人目)・村松権祢宜(左より4人目)

命 名

平成十二年十二月一日〜平成十三年三月三十一日

杉浦 帆香	齋藤 大貴	甲田 みお	小沼 拓生	大石 哲平	朝倉 洗生	浅野 光咲	鈴木 蘭世	平山 智也	木晴 建築	馬淵菜都美	石代 愛奈	野尻 湜太	鈴木 絢音	木下 奏音	山本ありさ	宮寄 涼	村松里季佳	清水 咲希	池谷 優希	萩原さくら	百鬼ありさ	山喜 建築	神馬かえで	木下 直紀	川辺 直樹	岡田 将輝	山田怜央奈		
浜松市	袋井市	掛川市	袋井市	磐田市	浜名郡	引佐郡	掛川市	愛知県	森 町	袋井市	磐田市	袋井市	森 町	浜松市	袋井市	東京都	磐田郡	森 町	掛川市	小笠郡	磐田郡	磐田郡	袋井市	裾野市	森 町	袋井市	森 町		
川辺 友哉	山田 歩武	川嶋紗江良	新村 嘉基	小島 欽大	佐野 友香	浦田智菜津	鈴木 美羽	坪井 瞳	鈴木 季空	山下 琴末	溝口 桃菜	袴田 若那	小池 舞奈	竹内 佑輝	鈴木 宙	日下部仁咲	太田 湊士	寺本有輝也	佐野 巧	岩本 和馬	栗田 朋枝	栗田 永遠	山下 大翔	松浦 結稀	戸塚 貴哉	近藤 佑哉	河合 美紀		
森 町	浜松市	浜松市	袋井市	東京都	袋井市	袋井市	掛川市	浜北市	袋井市	袋井市	磐田郡	浜松市	森 町	森 町	袋井市	袋井市	浜松市	小笠郡	森 町	浜松市	森 町	森 町	袋井市	掛川市	袋井市	掛川市	磐田郡	浜北市	浜松市

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

まつり歳時記

五月〜七月

五月

阜月さつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 甲子祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

六月

水無月みなつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花菖蒲園園観覧祭 (午前九時)
- 五日 神饌田御田植祭 (午前十時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十日 花しょうぶまつり (午前十時)
- 十六日 花菖蒲観賞祭 (午前十時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 御田植祭 (午前九時)
- 三十日 甲子祭 (午前九時)
- 三十日 大祓式 (午後三時)

七月

文月ふみづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 三十二日 境内地譲渡記念祭 (午前八時)
- 三十二日 愛宕神社例祭 (午前九時)



宮川の新緑



愛宕神社

こども祭 (端午祭)

毎年五月五日の端午の節句に合わせてこども祭を執行いたします。ご参列の方は、当社にて命名されましたお子様とご家族です。本年は、平成十二年四月一日から平成十三年三月三十一日までにお生まれの二百名余となります。

殿内で祭典をして、お子様の無事成長を祈願致します。祭典後は、ご神札・柏餅・菖蒲湯用の菖蒲の葉・よもぎの葉を授与します。菖蒲湯につかることにより邪気を祓うとされています。こども祭に命名児をご案内して祭典を執行する当社の歴史は、二十年程前に逆のぼります。お子様のご無事なご成長をお祈り申し上げます。



門前こいのぼり

本宮山青葉祭

五月六日に若葉の美しい本宮山頂(五二メートル)にて青葉祭が執り行なわれます。午前九時に神社から送迎バスが出発し、途中より徒歩にて、奥宮の奥磐戸神社をめざします。

午前十一時、新緑の香り豊かな黒文字の枝を添えた社殿にて祭典が斎行されます。祭典後、天竜川を眼下にまた遠州灘を遙かに望みながら昼食をいただきます。爽やかな風薫る中、青葉若葉をお楽しみいただけます。



本宮山頂

花菖蒲観賞祭

門前の花菖蒲園が六月上旬から見頃となり、花菖蒲観賞祭を執り行います。本年は六月十六日に斎行致します。祭典後は、ご神札と花菖蒲(花・株)が授与され、ご神酒とお食事をお楽しみいただきます。また当日ご参列の皆様は花菖蒲園にも入園できますので、初夏の一日をお過ごし下さい。

(会費 五千円)



大平洋



美吉野

御田植祭

六月五日午前十時に、神饌田御田植祭が執り行われます。本年は宮代西地区総代・高木俊さんの持ち田で、敬神婦人会の皆さんによりましてお田植えがご奉仕されます。神饌田前の斎場で祭典執行後、早乙女は菅笠・赤だすきといったいで立ちで昔ながらに一本一本丁寧に植えていきます。十月には抜穂祭(刈り取りのお祭り)にて収穫した稲は精米し、神饌米(神前にお供する米)として使用します。一方神社では、夏至の日には祭典に引き続き、境内の神饌田で神職が田植えを行います。秋の収穫時には抜き穂にして麻の糸で束ね、例祭・新嘗祭・祈年祭の神饌に荒稲としてお供えします。



お田植え

新職員抱負



出仕 杉本 純一

この春、皇學館大學文学部神道学科を卒業し、小國神社出仕を拝命致しました。

奉職してはや二ヶ月が過ぎますが、まだまだ学生気分がぬけず、職員の皆様にご迷惑をかけてばかりおります。しかし、諸先輩並びに氏子の皆様方の温かいご教示を賜り、とても充実した日々を過ごしております。

現在、神社界では鎮守の杜が減少しつつあるという大変深刻な問題を抱えておりますが、小國神社は豊富な自然に囲まれ四季折々の花が咲き、神社があるべき姿を今に残し、ご参拝にみえる皆様に安らぎと感動を与えてくれます。私も初めて参拝した時、大変感動を覚えました。これも諸先輩方の永年にわたるご奉仕と弛まぬ努力の成果であると思います。

私もこれをしっかりと継承し、またこのようなすばらしい環境のもとで大神様にお仕えできる喜びをむねに精一杯ご奉仕させていただきますので、どうか今後ともご鞭撻の程宜しくお願い致します。



巫女 鈴木奈保子

今年度より巫女としてご奉仕させていただきますこととなりました。春は桜、秋は紅葉といった見事な自然のもとで働けることを本当にうれしく思います。一日も早く仕事を覚え、巫女としてきちんとご奉仕できるようにしたいと思います。また、仕事の中から一般教養や礼儀作法を身につけ、どこへ行っても恥ずかしくないような立派な社会人になりたいと思います。精一杯がんばりますので、どうか皆様よろしくお願い致します。



巫女 近藤 舞子

三月から社会人となり、今までとは全く違う環境で戸惑うばかりです。以前から希望していた仕事なので興味深いことが多く、楽しい毎日です。思っていたよりも大変で不安が山積みですが、とてもやりがいのある仕事だと思います。慣れるまでにはまだまだ時間がかかりそうの皆様方にご迷惑をかけてしまうと思いますが、一日でも早く仕事を覚え、役に立てるように努力したいと思います。

「小國の杜・点描」―初夏―

初夏の優しい風の中、門前の花菖蒲園が開園致します。五月下旬より六月下旬の間、四〇アールの園内には一三〇余种・四〇万本の花菖蒲が咲き競います。見頃となる六月十日には、境内にて「花しようぶまつり」が開催され多くの方が訪れます。琴・尺八の奉納演奏、お茶の野点(有料)、山野草展を楽しめます。花菖蒲は古来より人々に愛され俳句にも詠まれています。「はなびらの垂れて静かや花菖蒲 虚子」。花言葉は「優雅」で雨の中にも趣きを感じさせてくれます。古代の森を背景に季節の彩どりを是非お楽しみ下さい。



一宮花しょうぶ園



深山(みやま)つつじ

四月中旬頃、アスレチック帯・大宝殿の南斜面や記念館前などを、淡い赤紫色に染めます。ウグイスのさえずり、舞楽の笛の調べとともに春爛漫を感じさせてくれます。

石楠花(しゃくなげ)

四月中旬～五月初旬頃、西参道や大宝殿斜面を彩ります。わが国では神霊の宿る木とされ、家内安全を願ったといわれ、また、西洋では灌木の女王のバラの対し、王はシヤクナゲと称され、威厳・莊重といった花言葉もあります。



射干(しゃが)

高さ三十～六十cmで、四月中旬～五月中旬頃に、五～六cmの花をつけ、参道や宮川沿いの林中に群生しています。ニンギョウクサ・カラスノウギなど、地方名もあり、花が美しいため、安土桃山時代にヨーロッパにも紹介されました。



石斛(せつこく)

ラン科セッコク属 常緑多年草。洋ランのデンドロビウムと同じ仲間です。少名彦葉根・三玉とも呼ばれ、高さ五～二十cm。五～六月に二～三cmの白や淡紅色のほのかな甘い香りの花をつけます。参道の杉・松の古木の枝や大杉切株の屋根にみられます。



巫女さんの想い

小國神社は季節を彩る花が咲き、日々様々な方がご参拝になります。ご参拝の方とのふれあいの中で、花の名前を覚えることも大事なことであり、いつも笑顔を大切にしてご奉仕しております。(S)(O)

編集後記

○「玉垂」第二号をお届け致します。創刊号には適切なご意見を賜り厚く御礼申し上げます。今後の編集に活用させて頂きます。

○静岡といえは、「お茶」。当地の名産品であり、茶畑の新芽が眩しい限りです。編集部ではお茶の入れ方の好みそれぞれ違い、議論白熱です。

○当社に関わる写真をお寄せ下さい幸いです。

表紙写真について

平成十三年四月十五日午後二時斎行の神幸祭にて、お旅所前の状況を撮影致しました。好天に恵まれた日曜日、年に一度の渡御に多くの皆様方がお参りになりました。

平成十三年五月一日
「玉垂」(たまたれ) 第二号
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七〇一三二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
FAX 〇五三八(八九) 七三六七
印刷 専サインオフィス エム・エス・シー